

非連続の変革 未来創る

大日本印刷 ②

挑戦する企業

大日本印刷（DNP）は2023年2～3月に「ROE（自己資本利益率）10%・PBR（株価純資産倍率）1倍超・営業利益1,300億円以上の早期実現」などの長期目標を掲げた。印刷業特有の受注ビジネスによる黒子意識が強かつた同社が長期目標を明かすのは初めて。「非連続の変革」の第一歩だ。

成長領域伸長

事業戦略

や構造改革が寄与し、24年度の営業利益は約360億円。現中期経営計画の目標を1年前倒しで大幅に上回った。「夢が現実に近づいた。次に進む良いタイミング」（専務取締役の三宅徹）とし、26年度から始まる3カ年の新

ト。近年、営業利益率が
突出するエレクトロニク
ス部門だけに頼らず、全
事業部・社員一人ひとり
の挑戦を促す。

営業益1300億円超早期実現

中計以降は「全事業部で
それが営業利益CAGR
R(年平均成長率)5%
の達成」を目指す。「事
業で利益を稼ぎ、持続的
に成長する」(同)決意だ。
新中計は「皆で議論し、
皆で作り上げ、皆で実行
する」(同)がコンセプト

グ関連事業は、写真をプリントして楽しむ文化が強い米国を中心に海外展開を強化するほか写真の附加值値を作る。「市場を見直し、もっと伸びる」と分かった。顧客のニーズの機微をつかみ、当社が変化する」(同)。

新興国での展開を強化する。「既存事業の周辺領域を拡大するM&A（合併・買収）だ。単純な足し算以上の可能性を秘める。複合かつ統合的な提案が可能になり、Bツーバイ（企業間）事業で最も大事な顧客との信頼関係も

新興国を強化
ICカードなどを手がける情報セキュア関連事業は、アフリカを中心に行政府向けID認証サービスを提供するルビコンス(英領ケイマン諸島)を買収した。シナジーを生み、

2026-28年度の新中期経営計画における 注力事業領域 DNPの資料を基に作成

DNPの資料を基に作成

江戸学業領域		JINの資本化に伴う	
スマート コミュニケーション	情報セキュア関連	追加	
フォトイメージング関連	追加		
ライフ& ヘルスケア	モビリティ関連		
	産業用高機能材関連		
エレクトロニクス	デジタルインターフェース関連		
	半導体関連		

「一層密になる」（同）。両事業は新中計から注力事業領域に加わった。各事業部と交わす活癆な議論。三宅は「皆が自分が」として受け取り、

その先の目標はDNPブランドの強化だ。「DNPが関わっているなら安心だと思われる存在になりたい」（同）。“夢”は広がる。（敬称略）

2026-28年度の新中期経営計画における注力事業領域		DNPの資料を基に作成
スマート コミュニケーション	情報セキュア関連	追加
ライフ& ヘルスケア	フォトイメージング関連	追加
エレクトロニクス	モビリティ関連	
	産業用高機能材関連	
	デジタルインターフェース関連	
	半導体関連	